

北九州市開催 <北九州ミニ焼きうどんラウンド2> H26.6.28(SAT) 北九州市立企教丘小学校

北九州ミニ焼きうどんラウンド3が開催されました。

【参加者：小学校教職員5名、中学校教職員1名、指導主事1名、大学教員2名(岩手、福岡)(遠来：日田市から小学校教員1名、長崎県から中学校教員1名) 合計9名】

1 その3の経緯

5月のミニ焼きうどんラウンド2に引き続き、清水先生のご厚意で、北九州市で単元構造図を活用した「指導と評価の一体化」の勉強会【その3】の開催となりました。今回は、忙しい日程の中、机上で考えたことを授業でどのように具体化するかということに主眼を置いて、実技演習を交えた研修会を開きたいという希望をお願いし、清水先生に無理にお願いした状況でした。学期末の忙しい中で、少ない人数でしたが、遠来の方もおられ充実した会になりました。3回のシリーズの中で、最も内容が現場向きでした。

2 岩手大学 清水 将 先生による講義

前回に続き、学習指導要領の構造や指導と評価に関する具体的な話をしていただきました。今回のメインであるCゾーンの作成を通して、考えたい内容について説明がありました。評価規準や具体の判断基準などを文章化し「具体の子どもの姿」「声かけの具体」などについて検討をしました。具体と言いつつ複数の観点が含まれていたり、本当にそれがどのようすれば評価できるのかはつきりしなかったり、課題の多さに気付かされました。議論を交えながら、講義をしていただきました。

3 評価規準(具体の判断基準)を元にした実技演習

体育館に場所を移し、清水先生を指導者、受講者を生徒に、「アルティメット」(ドッチビーを使ったゴール型ゲーム)を教材として実技演習をしました。めざした内容を達成するために、ペットのトレーニング用具の網目状のボールを使って、操作が楽な状態を作り、ボールをもたない動きを生徒が意識できる場面づくりやその際の言葉かけについても考えました。

最後のゲームでは、評価者役を立て、実際に動く生徒を評価したり、直接の言葉かけしたりしました。参加者全員が汗だくで動く演習でした。

4 振り返り

部屋に戻り、事前に作成し、黒板に列記していた評価(具体の判断基準)や言葉かけの例を振り返りました。実際の指導場面では、より指導内容を具体的にし、絞り込んだものでないと使えないなどの意見が多く出ました。今回、単元構造図を活用した指導計画や評価計画を学んできた締めくくりとして行った実技演習を通して、指導方法の振り返りが具体的に行えました。今後、現場にとっては指導要領の主旨を詳細に理解する単元構造図の作成や解釈を実技や演習等の中で振り返ることが重要と感じられる研修会でした。

(清水先生ありがとうございました。) (報告:青木)

